



2月の行事・歳時記といえ

外販課 西口 晃平

2月の和名は「如月」。厳しい寒さに耐えるため、更に衣を重ねることから「衣更着（きさらぎ）」、草木の芽が張り出す時期であるから「草木張月（くさきはりづき）」、陽気が更に来る時期であるから「気更来（きさらぎ）」など、由来は諸説ありますが、いずれも寒さの中にも春に向けての息吹を感じるような、晩冬から初春に移ろう2月らしい謂われです。

陽の光の明るさや、ほのかに緑を帯びた青い海の色に、新しい季節の気配を感じることが増えてきました。そんな春待ちの2月の歳時記をお届けします。

2月2日「節分」（雑節）

元は各季節の始まりの日の前日のことでした。今のように立春（旧暦で1年の始まり）の前日のことを指すようになったのは、江戸時代のことです。

2月2日「冬土用明け」（雑節）

雑節のひとつ「土用」は、土公神（どくじん）という土を司る神様が支配する期間のこと。立春・立夏・立秋・立冬の前の約18日間を指し、期間中は土を動かす作業（土いじり、地鎮祭、井戸掘りなど）を忌むことになっています。

2月3日「立春」（二十四節気）

二十四節気の第1番目。旧暦ではこの日が新たな一年の始まりであり、雑節の八十八夜・二百十日・二百二十日の起算日（第1日目）です。暦の上では春が始まります。この日からは挨拶が「余寒見舞い」に変わり、「寒中見舞い」ではないことに注意。春とはいうものの、まだまだ寒い日は続きます。しかし、じきに梅の花もほころんで、春の気配も感じられるようになりますよ。この日から春分の間に今年初めて吹く南寄りの強い風が「春一番」です。

2月6日「初午」（雑節）

2月最初の「午の日」。各地の稻荷神社で五穀豊穡や商売繁盛、開運の祈願が行われる日です。稻荷社の本社である伏見稻荷大社の主祭神・宇迦御霊神（うかのみたまのかみ）が、伊奈利山の三箇峰に降臨された日が和銅4年（711年）の午の日だったことが由来。宇迦御霊神は五穀豊穡を司る神様であることから豊年祈願、転じて商売繁盛や開運を祈願するようになったとされています。また、立春を迎える2月最初の午の日は、1年で最も運気の高まる日でもあるんだとか。

2月18日「雨水」（二十四節気）

空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶け始めるという意味。春一番が吹いたり、鶯の声が聴こえる地域も出てくるころです。ただし本格的な春の訪れにはまだ早く、大雪が降ることも。三寒四温を繰り返しながら、少しずつ春に向かっていきます。

2月11日「建国記念の日」（国民の祝日）

建国を祝う日。日本では実際の建国日が明確ではないので、日本神話を基にこの日を定めています。戦前までは日本の紀元（歴史が始まる最初の日）として「紀元節」と呼んでいました。

2月14日「バレンタインデー」

聖ワレンティヌスに由来すると言われるバレンタインデー。その歴史はローマ帝国時代にまで遡ります。時の皇帝クラウディウス2世は、兵士の結婚を禁じていました。「家族」という守るのができると、士気が下がると考えたからです。その禁令に背いて恋人たちの結婚式を執り行ったのが、キリスト教の司祭だったワレンティヌス。しかし、それはやがて皇帝の知るところとなり、捕らえられ、殉教者となってしまいます。かくしてワレンティヌス司祭は聖人となり、「聖ワレンティヌス（英語読みでヴァレンタイン）」と呼ばれる愛の守護神として祀られることになりました。2月14日の日付は、ワレンティヌスが殉教した日です。

私も毎月何気に様々なイベントを過ごしていますが、意味や内容などを意識して過ごしてみるのも良いのかもしれません。ぜひ皆様もいろいろとお調べになってみてはいかがでしょうか。



アポポ新聞

チョコレートの歴史

リビングサービス課 中川 拓哉

2月といえば節分やバレンタインデーが思い浮かびますね。年を重ねるにつれて甘いものを食べる機会は減ったものの、バレンタインの日にチョコレートをもらえるかもしれないという期待は今も心のどこかに残っています。そんな思いから、チョコレートの歴史について調べてみました。

チョコレートの起源は、長い間、中南米のメソアメリカ地域にあると考えられてきた。現在のメキシコ南部からグアテマラ周辺に栄えたオルメカ文明、マヤ文明、アステカ文明では、カカオ豆を発酵させ、すりつぶして水や香辛料と混ぜた苦味のある飲み物が作られていた。マヤ文明では宗教儀式や祝祭に用いられ、カカオは神聖な存在とされていた。またアステカ文明では通貨としても利用され、皇帝モンテスマ2世が「ショコラトル」と呼ばれる飲み物を愛飲していたことでも知られている。

一方、近年の研究により、チョコレートの起源はさらに古く、南米エクアドルのアマゾン流域に遡る可能性が示された。約5,300年前の陶器からカカオの痕跡が見つかり、メソアメリカよりも早くカカオが利用されていた可能性があることが分かってきた。この発見は、チョコレートの歴史を大きく見直すきっかけとなっている。

16世紀になると、スペインの征服者エルナン・コルテスによってカカオがヨーロッパにもたらされ、王侯貴族の飲み物として広まった。産業革命を経て製造技術が発展し、19世紀には固形チョコレートが誕生する。20世紀には大量生産が進み、チョコレートは世界中で親しまれるお菓子となった。

日本には1797年、長崎でオランダ人から贈られた「しょくらあと」が最初の記録として残っている。明治以降、国産チョコレートの製造が始まり、昭和にはバレンタイン文化とともに広く定着した。チョコレートは、神聖な飲み物から現代の身近な贈り物へと、人々の文化とともに歩んできたのである。

チョコレートの歴史は長くたくさんの人々に愛されてきた食べ物であると思います。今年のバレンタインデーはもらう側ではなく渡す側として奥さんに逆プレゼントしてみようかなと思います。皆さんも大切な人に普段言えない感謝の気持ちを込めたプレゼントしてみませんか？

